

APNIC40参加報告書

山形大学 理学部物理学科 3年
高木 萌

1. 参加したセッション・チュートリアル及びソーシャルイベントの一覧

9月8日(火)

Opening Ceremony and Keynotes
APOPS1
APOPS2
IANA Stewardship Transition
Disaster preparedness BoF
DNS Variant Management BoF

9月9日(水)

IRR Tutorial and RPKI Demo
Internet - Mobility Nexus: Are We Ready for Real Mobile/Wireless Broadband?
Hypes? Fanfares? Fads? Wading through the muddy IPv6 puddle
Security Session

9月10日(木)

Policy SIG 3
AMM

参加したソーシャルイベント

9月8日(火)

Newcomers Luncheon
Conference Opening Reception

9月9日(水)

Women in ICT Luncheon
Meet the APNIC EC Cocktail
Fellows Dinner …… Fellow向けプログラム

9月10日(木)

Mentoring …… Fellow向けプログラム
APNIC Closing Dinner

三日間で合計19ものセッション、チュートリアルそしてソーシャルイベントに参加しました。

2. 特に印象に残ったセッション

・ Disaster preparedness BoF

このセッションの存在を事前にAPNIC40のWebサイトで知ってから、必ず参加しようと決めていました。その理由は、東日本大震災によって私自身が実際にインターネット通信から遮断された経験があったからです。

セッションでは複数のスピーカーがインターネットを利用した災害対策や災害発生時の情報通信対策についてお話しなさっていましたが、その中でも最も印象に残っているのは、Vanuatuの災害復興に関するプレゼンテーションです。ハリケーン・パムによるVanuatuの被災状況についてこのセッションに参加して初めて知り、とても驚きました。

このセッションへの参加は、改めて自分自身が被災した時の状況を考え直すきっかけとなりました。東日本大震災発生時、実際に2~3週間ほど情報通信から遮断されたことを思い返すと、日本もまだまだ災害発生時の通信手段について対策を進める必要があると気がつきました。これから様々な環境における災害時の情報通信について知識を増やし、未来に起こる自然災害に備えたネットワーク環境について考えていきたいと思うようになりました。

今回このセッションを担当なさっていたAPNICの方とコネクションを作ることができたので、ぜひ連絡をとり東日本大震災を経験した立場から日本の災害時の通信について情報発信ができればと思います。

• IRR Tutorial and RPKI Demo

私は今まで勉強会などにも一度も参加したことがなかった為、「チュートリアルに参加する」ということもAPNIC40での目標の一つでした。実際に参加してみると、メインのセッションでは内容が難しくスクリプトを追うので誠意一杯だったのに対し、チュートリアルではその場で理解できる内容が少なからずあったのではないかと思います。

このチュートリアルでは、ルーティングの基本的なことから解説があり、以前勉強していた内容の復習にもなりました。また、自分で調べた際にはきちんと理解できなかったIRRやRPKIについても改めて学ぶことができました。

このチュートリアルに参加したことで、以前BGPによるIPv4経路制御の実験に挑戦した際に、うまくルーティングができなかった箇所の原因が恐らく判明しました。チュートリアル中にこれが分かった時、参加して本当に良かったと強く感じました。

このチュートリアルで学んだことは、今回参加したプログラムのうち以前から知りたと思っていたことに最も直結するような内容でした。

3. 全体を通しての所感

カンファレンス参加初日は難しく感じる内容が多く、今のレベルでは来るべきでなかったかもしれないと不安になりました。しかし、四苦八苦しながらも色々なセッションに参加し、なるべく多くの人とコミュニケーションをとろうと挑戦していくにつれ、「本当に数多くのことを発見し、学ぶことができている」という実感がわいてきました。APNIC40カンファレンスでの経は、普段大学では出会うことができないようなものばかりで、1日目が終わる頃には大学三年生という立場でもこういったことが経験できるとは、本当に良い機会に恵まれた、と参加支援プログラム対象者として選んでいただいた喜びを噛みしめました。

APNIC40カンファレンスでは、純粋にインターネットに関する技術や団体についての知識が増えたことが嬉しかったです。もちろんセッション参加中は英語が難しく、そのプレゼンのキーワードを拾うのが精一杯なことも多くありました。しかし、セッション後にはセッションの映像やトランスクリプトをAPNIC40のWebサイトで見ることができたので、改めて時間をかけてセッションを振り返ることができました。このビデオやトランスクリプトなどのサービスには非常に助けられています。

カンファレンス期間中で、学ぶことのない時間は一切ありませんでした。APNIC40カンファレンスには常に発見と学びがあり、本当にたくさんの刺激を受けることができたと思います。

ソーシャルイベントでは自分の英語力に不安を感じながらも、なんとか会話をしていましたがAPNIC40で出会った方々は皆様、私の英語がどんなにむちゃくちゃでも真剣に聞き意味を取ろうとしてくださりました。このことに気がついてからは、あまり臆さずに自ら話しかけることができるようになりました。もちろん話しかけるときはいつも緊張しましたが、自分から積極的に行動することで様々な出会いを作り、より多くの経験を積むことができたように思います。

しかし、一方で自分の言いたいことをうまく伝えられなかったり、とても興味のあるセッション内容だったにもかかわらず全く内容を理解することができなかったりと、悔しい思いをする場面も多々ありました。もっと英語ができたなら、知識があつたら、と思うと日々の学習の大切さを痛感しました。

4. APNIC40に参加して学んだこと及び、得た経験を今後どう生かしていきたいか

今回APNIC40カンファレンスに参加することで、コミュニケーション、人と人のネットワーク作りというものを初めて経験し、それらの大切さを学んだことが私にとって最も印象に残っています。

今までカンファレンスや勉強会などに参加したこともなく、人との繋がりについて特に意識したことがありませんでした。しかし、APNIC40カンファレンスで本当に多くの方々と名刺を交換し、会話をしていく中で、もうすでに挨拶だけでは終わらずその場で今後の約束ができていくのが分かりました。以前から「コミュニケーションの大切さ」というものを言葉上では理解していたつもりでいましたが、APNIC40カンファレンスで人との繋がりがなぜ重要か、そしてひとつひとつの出会いが様々な次のチャンスを作るのだ、ということをも身を持って学びました。

また、セッションに参加したり、APNIC40内で開催されていたソーシャルイベントで積極的に会話していく中で、自分の今の英語能力が具体などの程度なのかを把握することもできました。

今までTOEICなどでの英語力評価はしていましたが、実際にカンファレンスなどに出席したら、自分がどれだけリスニング、スピーキング、リーディングができるかどうかを確認したことはありませんでした。APNIC40に参加したことで、今の自分はどの程度プレゼンが聞き取れるのか、またどの程度英語で会話ができるのかが分かった為、これから何をどのように学習すべきかがクリアになりました。

このAPNIC40カンファレンスで得られたネットワークを大切にすることが、さらなる人とのネットワーク拡大につながり、またそれには当然英語のコミュニケーションも含まれるため、同時に英語力の強化にもなるのではないかと思います。

カンファレンスを通して新たに多くのシステムやコミュニティについて知ることができました。特にAPNIC40で新たに知った脅威分析ソフトウェア「MATATABI」は非常に興味が湧きました。実際に私が所属する山形大学Linux研究会の活動のひとつとして、2015年10月よりLinux研究会サーバーに導入し脅威分析を行っていくことを計画しています。

また、大学1年生でルーティングに挑戦した際はIPv6については強く意識していなかったのですが、IPv6については全く取り組みませんでした。今回IPv6に関するセッションを多く聴いたことで、IPv6についてもっと技術的な知識を身につける必要があると思うようになりました。

以前から経路制御の実験に再挑戦したいと考えていたので、IPv4とIPv6との共存技術464XLATについて知ることができたのも大きな収穫でした。

こういったAPNIC40で知ることができた技術的な情報は、積極的に山形大学Linux研究会で共有し学んでいきたいと思っています。

所感でも述べましたが、セッション中はその場では詳細までは理解できなかったことがほとんどでしたが、参加したことに何の意味もなかったと言えばそんなことはなく、セッション中に新たなシステムや技術、団体などの名前だけでも数多く知ることができたので、後で改めて調べ、結果的に様々なことを学びました。今後コミットしていきたいと思うものも沢山見つかりました。

APNIC40に参加したことは、自分の中の「インターネット」への意識改革にもなりました。インターネットユーザーはユーザーでありながらインターネットを構成していく者でもあるのだと思うようになりました。

私自身は大学でネットワークやそれに関連することを専攻しているわけではありません。周りにもハードウェアやソフトウェア開発に興味がある人はいますが、インターネットそのものに興味を持っている人が少ないように感じます。当たり前前に存在しているものだからこそ、あまりその存在自体を意識する機会が少ないのかもしれません。

インターネットに関するお話をしてくださるといふ方にAPNIC40で出会うことができたので、大学内でもインターネットについて知り、考えることができる場をセッティングできたらと思っています。

5. 参加支援プログラムに対する所感

フェロシップ委員の皆様には本当にたくさんの方々をご紹介いただきました。もし、この参加支援プログラムのフェローとしてではなく、また別の立場で参加していたらお話しするチャンスがなかったかもしれない方々も多くいらっしやっただと思います。カンファレンス参加中もいつもお気遣いいただき、何をしたいかわからないという状況に陥らずに安心して全てのプログラムに参加することができました。大変お世話になりました、本当にありがとうございます。

自分には難しすぎるかもしれないと最初は支援プログラムへの応募をためらっていましたが、本当に応募してよかったと思います。これを逃したら経験する機会はなかったかもしれないことばかりでした。

また新たな支援プログラムをやっていただけるならば、そのとき応募資格がある人は応募する他はないのでは、と私は思います。Linux研究会の後輩にも参加することを強く勧めたいです。